

野菜を有事の蓄えに 野菜で地域につながりを



NPO団体 B I S A I I F A R M（びさいファーム）は耕作放棄地を活用し災害時の食事に使うための野菜を栽培しています。

代表の林 昭子さんは、災害時の食事で野菜が不足し体調を崩す人が出ることを知り、災害に備えて蓄えておく野菜（備菜）作りができないかと考え活動を始めました。また愛媛県は耕作放棄地率が全国4位で、手入れされずに荒れた田畑を地域のために活用したいという思いもあります。成長し過ぎた野菜は収穫して子ども食堂などに提供している他、うわじま市民ライターとしてもこの取り組みを紹介しています。

活動を始めたころは地域の人から「うまくいくのか」と心配されることもあったそうですが、次第に「がんばりよるね」と声を掛けてくれる人が増え、お願いしていないのに水やりなどに協力してくれるようになったといいます。また「自分の畑もきれいにしたから、いつでも野菜を植えていいよ」と話をもらうこともあったそうです。

林さんは「今後は、野菜を使った昔ながらの保存食作りなど高齢者と子どもが交流できる場も増やしていきたい」と力強く話してくれました。